

3. 受講定員 150名

4. 受講料 無 料

5. 受講申込方法等

① 受付期間 平成26年8月1日(金)～9月12日(金) ※定員になり次第締め切ります。

① 来学の場合	8月1日(金)以降(ただし、土曜日、日曜日、祝日及び8月13～15日を除く)の9:00～17:00の間に下記申込場所へお越しください。
② 郵送の場合	受講申込票に必要事項を記入の上、下記申込先へ郵送してください。
③ FAXの場合	受講申込票に必要事項を記入の上、下記申込先へFAXしてください。
④ E-mailの場合	受講申込票に必要事項を記入の上、下記アドレスに送信してください。

③ 申込先・問合せ先 〒657-8501 神戸市灘区六甲台町1-1 神戸大学企画部社会連携課
TEL (078)803-5028 FAX (078)803-5024 E-mail plan-sharen@office.kobe-u.ac.jp

6. 修了証書 講義6回のうち、4回以上受講された方には修了証書を授与いたします。

7. その他 阪神地域(神戸市、尼崎市、西宮市、芦屋市、伊丹市、塚田市、川西市、三田市、猪名川町)に暴風警報、大雨警報が発令され、午前11時までに解除がなければ、その日の講義は中止です。また、主催者側の都合により休講となる場合があります。

8. 会場 神戸大学六甲台地区・六甲台第2キャンパス・農学研究科・農学部 C棟1階 101教室

9. 神戸大学案内図

六甲台第2キャンパス

公開講座会場
(C棟1階101教室)

交通案内

① 受講申込場所

神戸大学本部事務局6階 企画部社会連携課
●交通機関: 阪神「御影」、JR「六甲道」、
阪急「六甲」から市バス36系統鶴甲団地行にて、
「神大本部工学部前」下車

② 公開講座会場

神戸大学大学院農学研究科・農学部C棟1階101教室
●交通機関: 阪神「御影」、JR「六甲道」、
阪急「六甲」から市バス36系統鶴甲団地行にて、
「神大文理学部前」下車



第45回 平成26年度 神戸大学公開講座 神戸大学研究最前線

～活躍する女性研究者たち～

主催 神戸大学 後援 兵庫県・神戸市 平成26年 9/28日 10/5日 12日



神戸大学企画部社会連携課

〒657-8501 神戸市灘区六甲台町 1-1 TEL(078)803-5028

フェスタ
国立大学2014

1. テーマ及び趣旨

神戸大学研究最前線 ～活躍する女性研究者たち～

神戸大学公開講座は昭和45年度の第1回以降、皆様のご支援・ご協力のおかげをもちまして、今年度、第45回を迎えることになりました。従来のテーマは、大学一般教養科目に近い内容で、主として社会人の方々を対象として開講し、一定の評価を得てまいりました。さらに近年からは、昨今の社会問題などを取り上げたタイムリーな講義内容を設定し、多くの方々が関心を持つ事柄について専門家が解説を行う形式で実施したところ、大変好評をいただいております。

今年度につきましては、本学で活躍する女性研究者に焦点をあて、「神戸大学研究最前線～活躍する女性研究者たち～」というテーマで、注目すべき研究を行っている女性教員を神戸大学の4大学術系列(人文・人間科学系、社会科学系、自然科学系、医学・生命科学系)からバランスよく選出。日頃知り得る機会が少ない神戸大学における研究フロンティアの状況を踏まえながら、研究者自身がわかりやすくお話しします。

本公開講座の受講を通して、最新の研究動向また研究機関としての神戸大学の一端を、皆様にご理解いただければ幸いです。どうか、ふるってご参加下さいますようご案内申し上げます。



2. 日程・講義題目・講師

9/28日
13:30～15:00

製薬会社ではなく、大学で抗がん剤の設計を一からしたしたら
医学研究科 ————— 准教授 島 扶美

研究分野 分子生物学、生化学、構造生物学

rasがん遺伝子産物Rasの薬剤結合ポケットの形成メカニズムの解析、分子標的がん治療薬の理論設計について取り組んでいる。日本分子生物学会、日本生化学会、日本癌学会、日本内科学会、日本糖尿病学会、日本内分泌学会に所属。

講義概要 もの作りの歴史に偶然の発見はつきものと言っても過言でないかも知れませんが、抗がん剤開発の歴史がまさに良い例です。第1次、第2次世界大戦で使われたマスタードガス(毒ガス)が将来、白血病治療薬の開発に結び付くことを戦時中一生涯が予想できたでしょう。しかし、戦争という悲劇を通じて抗がん剤の起源となる物質が実際に誕生し、その後の先人たちの弛みない努力により、今日、多くのがん患者様を支えるがんの化学療法(いわゆる抗がん剤による治療)の礎が築かれたのも紛れのない事実です。近年のがんの内科的治療は、放射線治療や前述の抗がん剤(がん細胞、正常細胞の両方に作用するので副作用が強い)などによる治療から、がん細胞のみの生命維持に関わる細胞内の特定の蛋白質の機能を阻害する物質(分子標的がん治療薬)により治療を行う新しい時代に入っています。本講義では、抗がん剤開発の歴史をふり返るとともに、元内科医である自身が神戸大学医学研究科での研究生活で経験した偶然の発見がきっかけとなり、現在所属する研究室で精力的に進められることになった分子標的がん治療薬の開発について、開発現場でのよもやま話も含めて紹介させていただきます。

9/28日
15:20～16:50

細菌による感染、薬剤との戦い
保健学研究科 ————— 准教授 大澤 佳代

研究分野 細菌の薬剤耐性及び病原性遺伝子解析・感染制御のための疫学調査

薬剤耐性菌による院内感染などの制御のため、薬剤耐性及び病原性遺伝子解析を用いた監視をしていくことを目的として研究に取り組んでいる。日本感染症学会、日本化学療法学会、日本細菌学会、日本癌学会に所属。

講義概要 微生物の中でも、細菌は至るところに存在し、人間の生活に欠かせない役割を担う一方で、感染を起こす病原体としても知られています。例えば、家畜などの常在細菌として知られている大腸菌やサルモネラ菌は、ヒトにとっては食中毒を起こす細菌として知られています。このような病原性を示す細菌のほか、抗菌薬が効かない細菌もいます。細菌には薬剤に対して抵抗する力をもっており、薬剤を細菌内に入れないように細胞壁の構造変化を起こす、細菌内に入ってきた薬剤を排出するポンプ機能を持つ、あるいは薬剤のターゲット部位にくっつかないように変化することなどにより薬剤の効果をなくします。これらの細菌に関する研究結果や、海外における細菌感染症についての取り組みとして、インドネシアにおける小児下痢症の研究結果の報告もいたします。細菌における感染や薬剤耐性とは何か、その成立にはどのような要因があるのかについてお話をいたします。

現代社会における雅楽の展開

国際文化学研究科 ————— 教 授 寺内 直子

研究分野 日本音楽史・民族音楽学

伝統音楽の海外における発信・受容、伝統音楽の現代社会における展開、雅楽のサウンドスケープについて取り組んでいる。東洋音楽学会、日本音楽学会、沖縄文化協会、Society for Ethnomusicology、International Council for Traditional Musicに所属。

講義概要 雅楽は日本の伝統芸能の中で、もっとも古くから登場するジャンルです。天皇や貴族の文化と深く結びつき、長い年月をかけて、その表現様式を洗練、発展させて来ました。しばしば、「日本の伝統音楽」の代表として海外にも紹介されます。しかし、雅楽はじつは、その内部に外来の要素と日本固有の要素を複雑に合わせ持ち、しかも、1300年を越える長い歴史の中で、様々に変容してきました。雅楽は果たして「日本の伝統音楽」なのでしょう。近年では、伝統的な雅楽曲以外に、西洋の現代芸術音楽やポップスと融合した新しい作品もたくさん生まれています。また、日本国内ではあまり知られていませんが、1960年代からは海外の大学でも教えられています。雅楽はどこから来て、どこに行くのか。日本とアジア、さらに世界の音楽の潮流の中で雅楽という古くて新しい芸能の存在について、実例を交えながら、一緒に考えてみたいと思います。

10/5日
13:30～15:00

燃える氷「メタンハイドレート」～エネルギー・環境問題との関わり～

工学研究科 ————— 助 教 片岡 沙都紀

研究分野 地盤力学、地盤材料学、メタンハイドレート

地盤工学会、土木学会に所属。

講義概要 石油に代わる次世代のエネルギー資源として注目を集めているメタンハイドレートは、私たちが住む日本近海の高底堆積土中にも広く分布しており、実際に南海トラフを中心に試掘が進められています。しかしその一方で、もし大量のメタンハイドレートを採取してしまうと、その採取手法によっては地盤が不安定となり、沈下や地すべりなどの発生やそれに伴うメタンガスの過剰などの可能性が懸念されているのも事実です。したがって、メタンハイドレートをエネルギーとして活用していくためには、開発に伴う周辺環境への影響を十分に配慮していく必要があります。本講義では、メタンハイドレートとはそもそもどのようなものでなせ海底下に多く存在しているのか、実際に行われている調査の様子などといったお話をさせていただきます。今回の内容を通して、より多くの皆様にメタンハイドレートに興味を持っていただければ幸いです。

10/5日
15:20～16:50

西陣と桐生と福井:近代日本絹織物業の発展に夢を馳せる

経済学研究科 ————— 教 授 橋野 知子

研究分野 近現代日本経済史

織物業を中心とした産業集積の形成・発展史。比較地域発展論、日本経済史と経済発展論との架橋。社会経済史学会、経営史学会、政治経済学・経営史学会に所属。

講義概要 工業化のプロセスの中で、最初に成功し、最初に成熟期を迎えたのが繊維産業であったことは、西欧社会や日本の経験から明らかになっています。また、日本には多くの織物産地が存在し、経済史や経済地理学の分野で盛んに研究されてきました。たとえば誰もが知っている西陣は、日本の織物業の最先端にあり、明治初期に海外から多くを学び、日本の織物業の近代化に大きく貢献したと言われています。一方、富岡製糸場があったことでも有名な群馬県に位置する桐生産地は、西陣から学び近世以降大きく発展しました。そして新興産地福井は、明治の中頃から桐生から学ぶことによって、日本を代表する絹織物産地にまで成長しました。これら三つの産地には、どんな共通点・相違点や結びつきがあったのでしょうか。比較地域発展論の試みとしての本講義では、これらの歴史が現在、成熟産業と言われる繊維産業や地域産業の活性化・再生にどのような示唆を持つのかも考えてみたいと思います。

10/12日
13:30～15:00

諸外国における年齢差別禁止法の制定と展開

法学研究科 ————— 教 授 櫻庭 涼子

研究分野 労働法

雇用差別禁止法を主に研究している。日本労働法学会に所属。

講義概要 日本の雇用社会においては、労働者の年齢が様々な場面において考慮されてきました。例えば、募集・採用について年齢制限を課す企業が多いこと、定年制が設けられていること、年齢や勤続年数に応じて賃金額が上がるものとされていること、その一方で高齢者だけが賃金額を引き下げられる場合もあること、等々の取扱があります。このような取扱について、日本においては、原則として募集採用時に年齢制限を設けてはいけないことしたり、定年制を設ける場合には60歳を下回ってはならないものとしたりするなど、一定の法的規制を行ってきました。しかし外国に目を転じると、いまや先進諸国ではほとんどの国が年齢差別禁止法を制定しており、定年制や募集採用時の年齢制限、高齢者の賃金減額などは、年齢差別として違法となるかどうかという観点から議論されています。では、それらの国ではなぜ年齢差別が禁止されたのでしょうか。年齢差別は、どのような場合に違法となり、どのような場合であれば許されるのでしょうか。本講義では、日本の上記のような問題を念頭に置きながら、外国における雇用場面の年齢差別禁止法を検討していきます。

10/12日
15:20～16:50